

ナガエツルノゲイトウ現地視察の様子（2026年8月6日）

新たに発生が確認された箇所への対応も含め、ナガエツルノゲイトウ対策チームにおいて今後実施する対策の検討が進められる中、過去から発生が確認されている箇所の現状を把握するため、東播磨県民局幹部が現地視察（加古川水系西川、権現川、小川及び喜瀬川水系）を行った。

加古川水系権現川（加古川市平荘町西山）の状況。特に抜き取り等を行っておらず、広範囲に繁茂している。このすぐ下にある西川・権現川合流点下流の取水口から取水している水田で新たに発生が確認されており、何らかの対策が必要と思われる。



加古川水系西川（兵庫県企業庁加古川工業用水道管理所付近：加古川市平荘町養老）の状況。特に抜き取り等を行っておらず、広範囲に繁茂している。これより下流に農業用取水口はないとされているため、対策の優先順位は低いと思われる。



喜瀬川水系新川池（加古川市平岡町土山）の状況。池の入口に喜瀬川からのナガエツルノゲイトウの流入を防止するためのオイルフェンス、農業用取水口（2か所）に流出防止ネットを設置済み。池の中では繁茂しているが、状況はコントロールできているように思われる。



新川池より下流の喜瀬川本川（県立考古博物館付近：播磨町野添）の状況。播磨町主催の「ナガエバスターズ」による抜き取りが複数回行われているが、再び繁茂している。農業被害防止の観点から必要な対策を改めて検討する必要があると思われる。

